

対象校種 中学校 高校
対象教科 社会 学級活動 総合

その時 歴史が動いた シリーズ日本降伏 前編

焦土に玉音が響いた～8月15日・終戦決定までの道程～

放送日:2008年9月3日 放送時間:43分



この番組の良さ

● 1人1人が「平和」を築くために

終戦から70年以上が経過し、戦争を経験した世代が減り、「戦争」という言葉にリアリティを感じない世代が増えています。『シリーズ日本降伏 前編 焦土に玉音が響いた』では、終戦の詔勅を伝える玉音放送が国民のもとに届くまでの詳細を知ることができます。教科書や資料集からは読み取れない、終戦に至る経緯を振り返ることで、そこから浮き彫りになる歴史の教訓を考えることができます。

番組活用のポイント

● 終戦の過程を教訓に、戦争の悲劇について考える

1945年8月15日正午、4分37秒の天皇の玉音放送により、国民に終戦が伝えられました。その3週間前、日本政府は連合国に、日本占領、軍隊の武装解除、戦争犯罪人の処罰などを含む降伏勧告・ポツダム宣言を突きつけられていました。これを受け入れた場合に「国体」=天皇制を守れるのかがどうかをめぐり、日本の指導者たちの意見は対立します。戦争の継続は不可能、天皇制は維持できるとして、一刻も早く宣言を受け入れたいとする和平派、天皇制が守られる保証がないのなら受け入れられないと徹底抗戦を主張する強硬派。双方が議論を続けている間も、空襲や原爆投下、ソ連の参戦などにより犠牲者が増え続けました。この番組では、終戦までのこうした過程を理解することができます。議論に時間が費やされる間に多くの命が失われていく悲惨、終戦直前まで起こる戦争の悲劇を知り、歴史から得られる教訓を考えるとよいでしょう。



BS1スペシャル ペリーの道

～元米国防長官の警告～ 前後編

放送日:2018年3月2日 放送時間:50+49分



この番組の良さ

● 1人1人が「平和」を築くために

「ペリーの道～元米国防長官の警告～」では、長年アメリカの軍事戦略に関わった元国防長官ウィリアム・ペリーへのインタビューから、核戦争に対する強い危機感を知ることができます。両番組は、若い世代に「平和」を築くためのヒントを与えてくれます。

番組活用のポイント

● 「核なき世界」に向けた、次世代への願い

番組では、第二次世界大戦から東西冷戦とその終結、テロとの戦いなど、元米国防長官ペリーの人生を追う形で、核兵器の危険性について考えることができます。実体験に基づいて「核戦争は人類の終焉になる」と信じるペリーの危機感が伝わってくる一方で、核を不要にするために通常戦力の強化を推し進めてきたことが正しかったかどうかを考えさせられる場面もあり、答えのない問いを迫られる内容です。

北朝鮮の核開発やテロの脅威についてはふだんからニュース等で知っていると考えられますが、番組視聴を通してそれらとアメリカの軍事戦略との関連も理解することができます。

80代になってから「核なき世界」を訴え始めたペリーは、世界の危機について私たちが「思考停止」になるのではなく、大きな動きを起こす必要があると説きます。「核なき世界」のために自分に何ができるのかを考える良い機会となります。

執筆者 向日市立寺戸中学校 教諭 鈴木英太